FIWA®マンスリー・セミナー講演より
長期投資成功の秘訣はアジア的感性にあり

講演： 岡本 和久
レポーター： 赤堀 薫里

ファイナンシャル・ヒーリング講座では、「理論」「運用方法」「歴史」「お金と心」の四つの柱に分けてお話をしています。その中でお金と心の問題、心構えは、非常にシンプルなことを長く続けていくうえで最も必要なことです。その中で、アジア的感性、我々アジア人として持っている本質的なものが、実は長期投資に非常に合っているということをお話します。

本来、資産運用は投資期間が非常に長いはずなのに、それがどんどん短くなってきている。できるだけ早く、できるだけたくさん儲けたいという人が増えてきています。その背景として、企業が収益をできるだけ早く、たくさん上げたいという企業サイドの行動の変化もあるのでしょう。トップも早く大きな利益を出して、大きな成果報酬をもらい、できるだけ早く辞めたいという風潮があります。最近 ESG 投資と言われるようになってきましたが、このような風潮に対する反省があるのではないかと思っています。

私はショートターミズム的な傾向を是正していく上で、有効なのがアジア的感性、アジアに伝統的にある考え方、ものの見方ではないかなと思っています。今回はそのような視点から、インド、中国、日本の特徴や共通点を含めてお話をしていきます。

現代人の多くは、意識が「今の自分」という小さな箱に入ってしまっている。もっと空間軸や時間軸を伸ばして意識を広げていくことが大切です。意識の広がりを目指しているという点が、アジア的感性として共通ではないかと思っています。

江戸豪商の経営思想を考えてみましょう。奉公意識、分限意識、体面意識などがあります。体面とは信用。分限は、自分が社会に対して貢献した「分」を限度として得る。それ以上望んではいけない。ご奉公とは、世のため、人のため、お客さまのための活動をするということです。これらを実現

Copyright ⓒNPO 法人「みんなのお金のアドバイザー協会～FIWA®」
発行人：岡本和久、発行：NPO 法人「みんなのお金のアドバイザー協会～FIWA®」
URL: https://fiwa.or.jp/ Email: joho@fiwa.or.jp

する方法として才覚、算用、始末ということが言われました。才覚はイノベーション。算用は企業経営、経理なども含め数字による管理ですね。始末とは、始めと終わりですから、プロジェクト・マネジメント。つまり、経営とプロジェクト・マネジメントとイノベーション、この三つが必要なのです。

少しずつゆっくり着実に稼ぐ。これは、江戸時代の初期の淀屋の華美にすぎた行動により、お家が取り潰しになったことが教訓になっているのでしょう。あまり目立たないように着実に稼ぐ。近江商人の売り手よし、買い手よし、世間よしという三方よしはよく知られています。井原西鶴は日本永代蔵という本を書いています。永代とは時間的な制約がないという意味です。そして、モノとお金をつないでいるものとして心が重視されています。和風の企業経営が、実は和風の資産運用と結びついて、これが健全な資本主義モデルになっていくのではないかと私は思っています。

「和」には多様なものを加えるという意味と、それらが調和するという二つの意味があります。これはポートフォリオと上手くフィットします。和風のポートフォリオはダイバーシティー、分散を十分に行い、ハーモニー、全体としてのリスクとリターンの調和を目指す。永代は長期。知足というのは「足るを知る」わけですから市場リターンで満足するというインデックス運用。積小為大は二宮尊徳先生の言葉ですけど、小さく積んで大を為す。まさに積立投資です。もったいないはコストに注意する。おかげさまの心で我々の生活を支えてくれている全ての世界中の企業に感謝を込めて投資をするということになります。

講演ではブッタの財産三分法や老荘思想と投資の心構えなどのお話がありました。日本ではなかなか本格的な投資が根付かないと言われています。戦後日本に、欧米的な投資理論や手法が導入されてきました。しかし、本来は、日本人やアジア人が持っている感性を活かした投資の方法を多くの人に知ってもらえば、欧米とは違った形になるかもしれないと思います。

アジア的感性と投資。あまり関係がないように思うかもしれませんが、私は、むしろ関係がないと思っているところに我々の幻想があり、実は非常に関係していると思います。これからは、世界の人々にも、アジア的な感性での投資というものをもっと知ってもらいたいと思っています。

Copyrightⓒ特定非営利活動法人「みんなのお金のアドバイザー協会～FIWA®」, 2020, All rights reserved